

岡山県感染症週報

2011 年 第 40 週（10 月 3 日～10 月 9 日）

岡山県では『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2011 年 第 40 週（10/3～10/9）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第 38 週 2 類感染症 結核 1 名（80 代 男）

5 類感染症 梅毒 1 名（50 代 男）

第 39 週 2 類感染症 結核 3 名（30 代 女 1 名、80 代 女 1 名、90 代 男 1 名）

の報告がありました。

■定点把握感染症の発生状況

○RS ウイルス感染症は、患者数が増加し、10 月上旬としてはデータのある 2004 年以降、最も多くなりました。

○A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、2 週つづけて増加し、10 月上旬としては患者数が多くなりました。

○インフルエンザは、全県で 2 名の報告がありました。

○流行性耳下腺炎は、全県では増加しました。備中地域は感染症発生レベル 2 がつづいています。

○手足口病は、わずかに減少し、真庭地域では感染症発生レベル 3 がつづいているものの、患者数は減少しました。

【速報】第 41 週 3 類感染症 細菌性赤痢 1 名（40 代 女）

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名（O157 生徒 男）の発生がありました。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、10 月に入って 1 名、今年は 10 月 12 日までに 59 名の発生がありました。岡山県では**腸管出血性大腸菌感染症注意報を発令**し、感染予防を呼びかけています。
2. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は増加しました（定点あたり 0.33 → 0.59 人）。10 月上旬としては、データのある 2004 年以降で最も患者数が多くなり、患者の 80% が 1 歳以下の乳幼児でした。
RS ウイルス感染症については『**今週の注目感染症**』をご覧ください。
3. **A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**の定点あたり患者数は、2 週つづけて増加し（定点あたり 0.50 → 0.61 人）、10 月上旬としては患者数が多くなりました。
突然の発熱と体のだるさ、咽頭痛によって発症し、幼児よりも学童期の小児に発生が多く、岡山県では 6～7 歳の患者が多く見られました。今後、冬に向けて患者増加が懸念される感染症です。
4. **インフルエンザ**は、岡山市 1 名、倉敷市 1 名の患者報告がありました（定点あたり 0.02 人）。第 39 週の全国集計では定点あたり 0.04 人と低いものの、近県では山口県で患者 46 名、幼稚園での集団発生も報告されており、インフルエンザウイルス AH3 型（いわゆる香港型）が検出されています。手洗い・うがいで感染を予防しましょう。（[国立感染症情報センター インフルエンザウイルス分離・検出速報 2011/2012 シーズン](#)）
5. **流行性耳下腺炎**の定点あたり患者数は、前週より増加しました（定点あたり 1.20 → 1.39 人）。県南部で発生が多く、備中地域では感染症発生レベル 2 がつづいています。今年は過去 10 年に比べ患者発生が多いので、感染に注意して下さい。
6. **手足口病**の定点あたり患者数は、わずかに減少しました（定点あたり 1.30 → 1.19 人）。真庭地域では感染症発生レベル 3 がつづいているものの、患者数は減少しました（5.50 → 2.00 人）。
7. **細菌性赤痢**患者 1 名の報告がありました。岡山県では、2009 年以降の発生です。原因については現在調査中ですが、東南アジアへの渡航歴があり、渡航中の感染も考えられます。

海外で感染症にかからないようにするには、出発前にあらかじめ渡航先の感染症に関する情報を入手しておくことが大切です（[厚生労働省 海外感染症情報](#)）。渡航先では感染に気をつけ、帰国時に体調不良があれば空港の検疫所に相談してください。また帰国後、体調が悪くなった時には、早めに医療機関を受診しましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★
感染性胃腸炎		★★	水痘		★
手足口病		★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★★	百日咳		
ヘルパンギーナ		★	流行性耳下腺炎		★★
急性出血性結膜炎			流行性角結膜炎		★
細菌性髄膜炎			無菌性髄膜炎		
マイコプラズマ肺炎		★★	クラミジア肺炎		

【記号の説明】

前週からの推移：
  2倍以上の減少
  1.1～2倍未満の減少
  1.1未満の増減

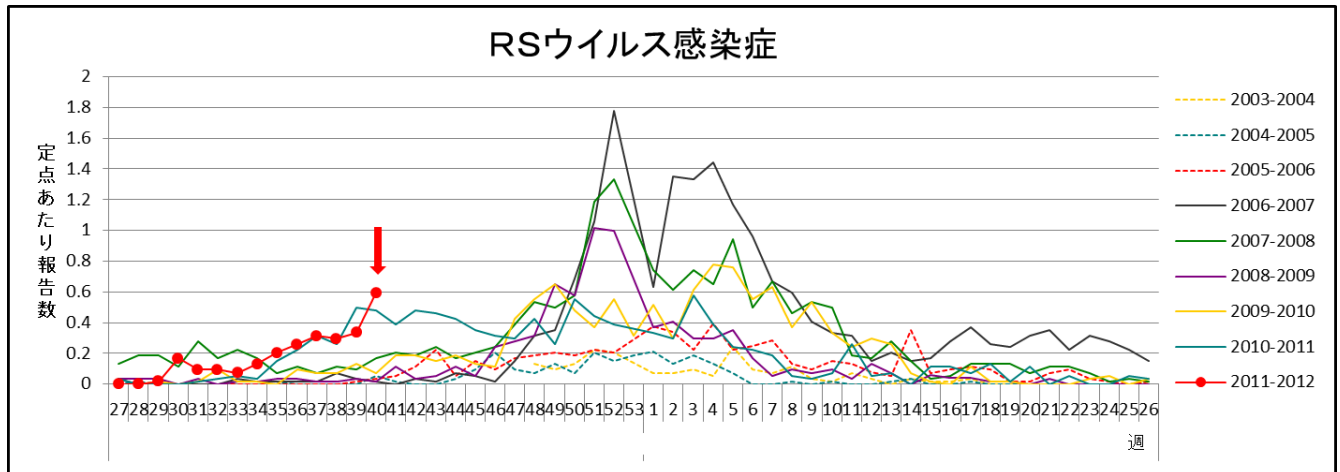
 1.1～2倍未満の増加
  2倍以上の増加

 流行状況：
 空白 発生なし
 ★僅か
 ★★少し
 ★★★やや多い
 ★★★★多い
 ★★★★★非常に多い

 ※定点当り患者数について、過去5年間の標準偏差値に感染症の種類毎に係数を乗じた値を5等分し、流行状況の目安として5段階で表示しています。

今週の注目感染症

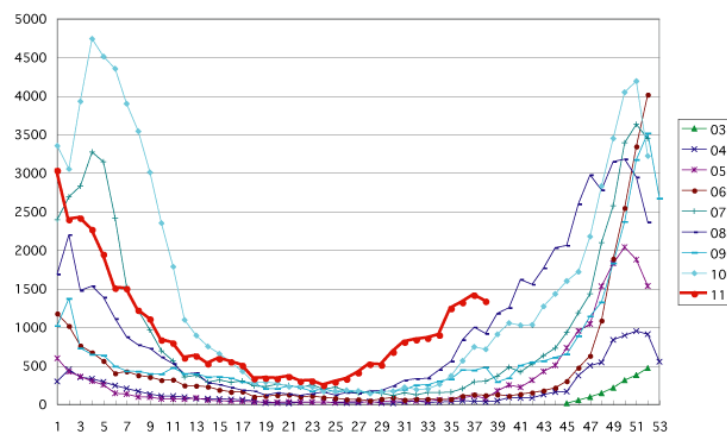
RS ウイルス感染症



RS ウイルス感染症は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとして、グラフを作成しています。

RS ウイルス感染症は、患者数が増加し（定点あたり0.33→0.59人）、10月上旬としてはデータのある2004年以降で最も多くなりました。国立感染症情報センターによると、全国でも、例年であれば低い水準で推移する夏から患者の増加が認められ、2004年以降の同時期としては最多の状態が続いていると報告されています。

岡山県の患者年齢分布は、1歳以下の乳幼児が80%を占め、全員が3歳以下の幼児です。RS ウイルス感染症は、重篤性や合併症から特に乳幼児において重要な感染症であり、今後秋から冬にかけてさらに患者の増加が懸念されています。



全国のRSウイルス感染症 過去との比較グラフ
(国立感染症情報センター 第38週 週報より)

【RS ウイルス感染症とは】

RS ウイルス感染症は、冬（11月～1月）に乳幼児の肺炎・細気管支炎などを起こす急性呼吸器感染症で、乳幼児の肺炎の50%、細気管支炎の50～90%を占めるとされています。2歳までに、ほぼ100%の子供がこのウイルスの初感染を受けるといわれ、生涯にわたり感染を繰り返しますが、通常年齢が上がるにつれ重症化することが少なくなります。

流行の中心は1歳以下の乳幼児です。潜伏期は2～8日、発熱、鼻汁、咳などで発症し、通常8～15日で軽快します。しかし、初めてかかる乳幼児では、しばしば肺炎や細気管支炎を発症し、生後6ヶ月以下の乳幼児においては重症化することがあり、入院を要することもあります。1歳以下では重大な合併症を伴うこともありますので特に注意が必要です。

感染力は強く、患者との密接な接触や、咳やくしゃみによるウイルスの飛沫により感染します。予防には手洗い・うがい、手指の消毒、マスクの着用が効果的です。保育園や幼稚園などでは集団発生することがありますので、感染予防に心がけてください。長引く咳や、呼吸時にゼーゼーと音がする喘鳴などが見られるときは、早めに医療機関を受診してください。また、大人が感染しても軽症のことが多いので、小さなお子さんにうつさないよう注意してください。

保健所別報告患者数 において 数字 は感染症マップにおいて レベル3
数字 は感染症マップにおいて レベル2 を示しています。

保健所別報告患者数 2011年 40週 (2011/10/03～2011/10/09)

2011年10月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	1	0.05	1	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
RSウイルス感染症	32	0.59	16	1.14	6	0.55	2	0.20	5	0.71	—	—	—	—	3	0.50
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	6	0.43	17	1.55	1	0.10	7	1.00	—	—	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	207	3.83	48	3.43	30	2.73	49	4.90	29	4.14	16	4.00	7	3.50	28	4.67
水痘	13	0.24	6	0.43	2	0.18	3	0.30	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	64	1.19	18	1.29	2	0.18	6	0.60	15	2.14	2	0.50	4	2.00	17	2.83
伝染性紅斑	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
突発性発疹	25	0.46	14	1.00	3	0.27	3	0.30	3	0.43	—	—	—	—	2	0.33
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	9	0.17	3	0.21	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	75	1.39	17	1.21	25	2.27	10	1.00	21	3.00	2	0.50	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	—	—	2	0.50	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—
細菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
無菌性髄膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	2	2.00	4	4.00	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
クラミジア肺炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2011年 40週 (2011/10/03～2011/10/09)

2011年10月12日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	1	0.05	1	0.06	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
咽頭結膜熱	7	0.13	1	0.07	1	0.09	—	—	1	0.14	1	0.25	1	0.50	2	0.33
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	0.61	6	0.43	17	1.55	1	0.10	7	1.00	—	—	1	0.50	1	0.17
感染性胃腸炎	207	3.83	48	3.43	30	2.73	49	4.90	29	4.14	16	4.00	7	3.50	28	4.67
水痘	13	0.24	6	0.43	2	0.18	3	0.30	—	—	1	0.25	—	—	1	0.17
手足口病	64	1.19	18	1.29	2	0.18	6	0.60	15	2.14	2	0.50	4	2.00	17	2.83
伝染性紅斑	7	0.13	4	0.29	1	0.09	1	0.10	—	—	—	—	1	0.50	—	—
百日咳	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
ヘルパンギーナ	9	0.17	3	0.21	1	0.09	—	—	2	0.29	—	—	—	—	3	0.50
流行性耳下腺炎	75	1.39	17	1.21	25	2.27	10	1.00	21	3.00	2	0.50	—	—	—	—
急性出血性結膜炎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
流行性角結膜炎	4	0.33	—	—	2	0.50	—	—	2	2.00	—	—	—	—	—	—

(— : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2011年 第40週 2011/10/03～2011/10/09)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	32	5	6	14	4	3	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	-	1	1	2	1	-	-	1	-	-	1	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	33	-	-	2	2	4	4	1	5	7	3	1	2	2
感染性胃腸炎	207	5	17	27	28	19	17	14	3	7	6	6	25	6
水痘	13	-	2	1	1	-	1	2	3	-	1	1	-	-
手足口病	64	1	4	16	17	11	3	7	3	-	1	-	-	1
伝染性紅斑	7	-	1	3	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	-	9	15	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	9	-	1	5	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	75	-	-	14	8	15	7	7	6	5	2	2	7	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-

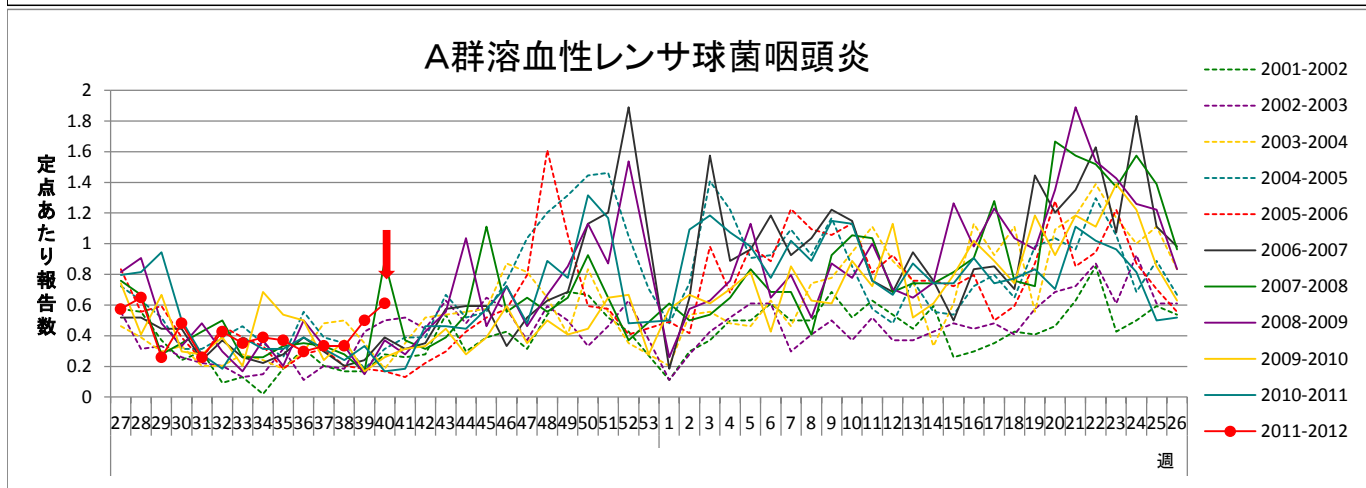
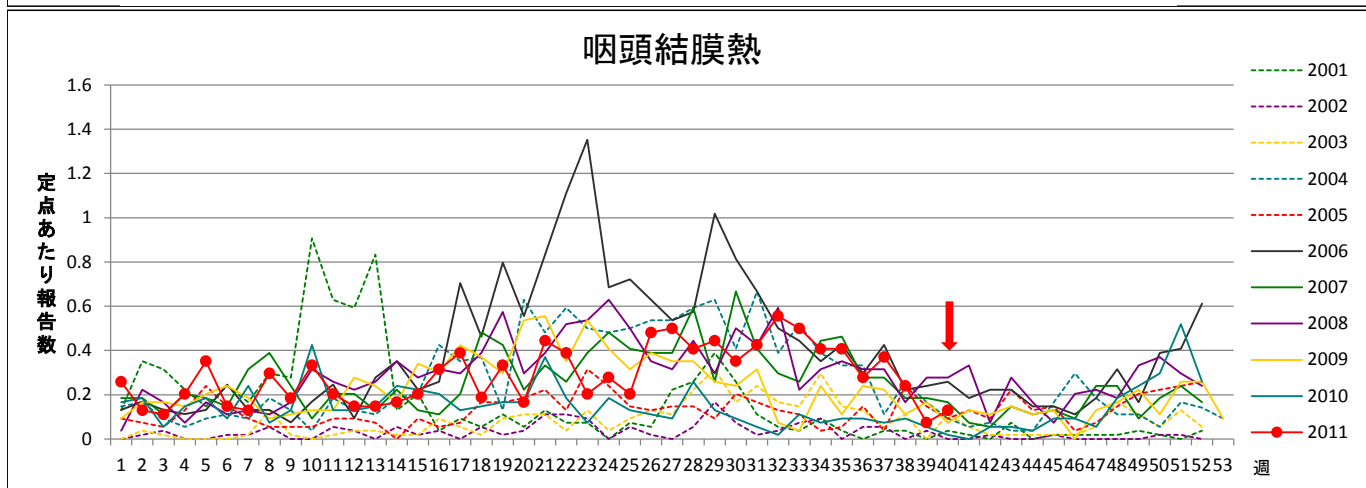
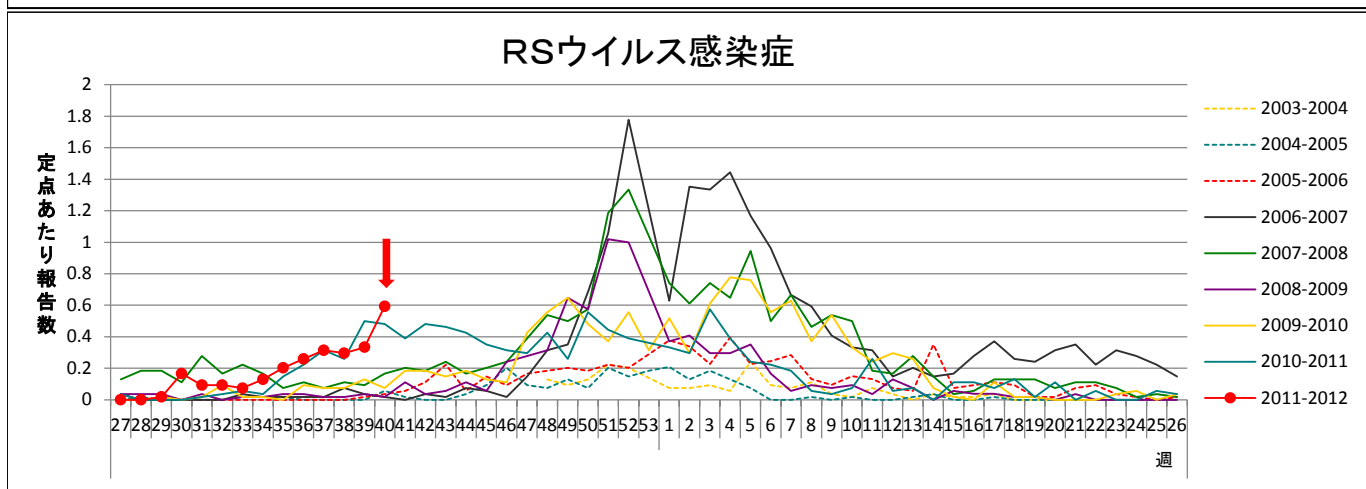
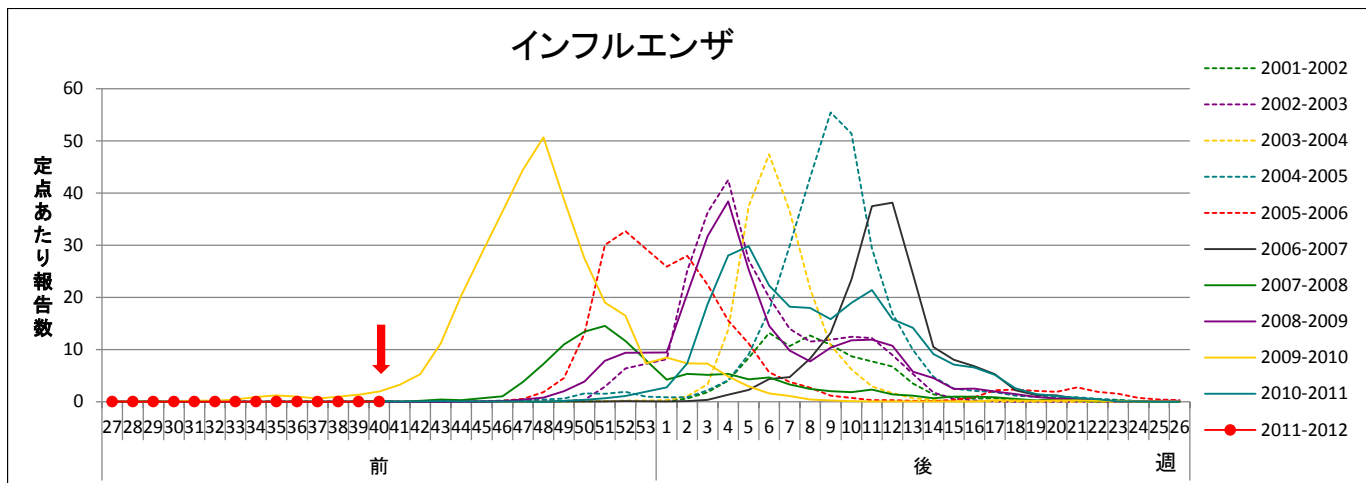
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	-	1	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0)

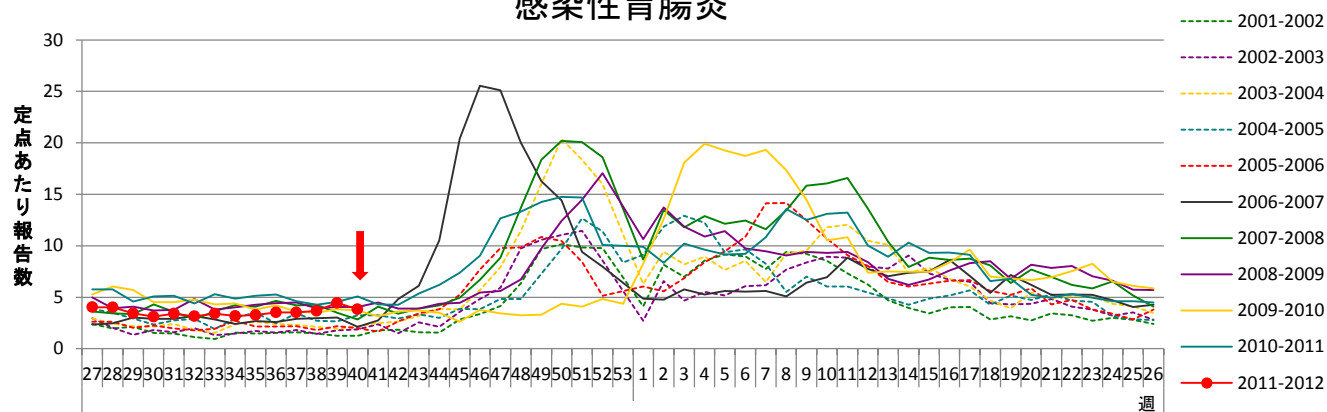
全数把握 感染症患者発生状況

2011 年 40 週

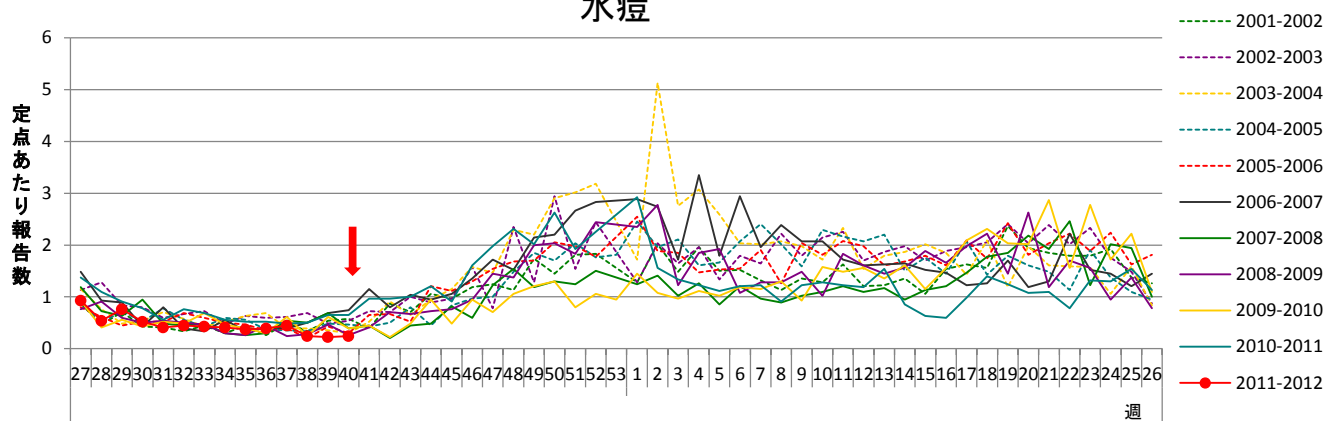
分類	疾病名	2011			2010	2011	2010	2011	2010
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱 ペスト	-	-	-	痘そう マールブルグ病
	南米出血熱	-	-	-		-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-	
		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核 鳥インフルエンザ(H5N1)	-	356	352	ジフテリア
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢 パラチフス	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症
	腸チフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	1	-	ウエストナイル熱 黄熱 回帰熱 狂犬病 腎症候性出血熱 炭疽 デング熱 ニパウイルス感染症 ハンタウイルス肺症候群 ブルセラ症 発しんチフス 野兎病 リフトバレー熱 レプトスピラ症	-	-	-	A型肝炎 オウム病 キャサヌル森林病 コクシジオイデス症 西部ウマ脳炎 チクングニア熱 東部ウマ脳炎 日本脳炎 Bウイルス病 ベネズエラウマ脳炎 ボツリヌス症 ライム病 類鼻疽 ロッキー山紅斑熱
	エキノкокクス症	-	-	-		-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-		-	-	-	
	Q熱	-	-	-		-	-	-	
	サル痘	-	-	-		-	-	-	
	ダニ媒介脳炎	-	-	-		-	-	-	
	つつが虫病	-	2	1		-	-	7	
	鳥インフルエンザ	-	-	-		-	-	-	
	日本紅斑熱	-	1	-		-	-	-	
	鼻疽	-	-	-		-	-	-	
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-		-	-	-	
	マラリア	-	-	-		-	-	-	
	リッサウイルス感染症	-	-	-		-	-	-	
	レジオネラ症	-	16	19		-	-	-	
五類	アメーバ赤痢	-	10	13	ウイルス性肝炎*3 クロイツフェルト・ヤコブ病 ジアルジア症 梅毒 バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	7	7	急性脳炎*4 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 髄膜炎菌性髄膜炎 破傷風 風しん
	クリプトスポリジウム症	-	-	-		-	1	2	
	後天性免疫不全症候群	-	10	22		-	2	5	
	先天性風しん症候群	-	-	-		-	9	9	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-		-	-	3	
	麻しん	-	4	3		-	-	-	



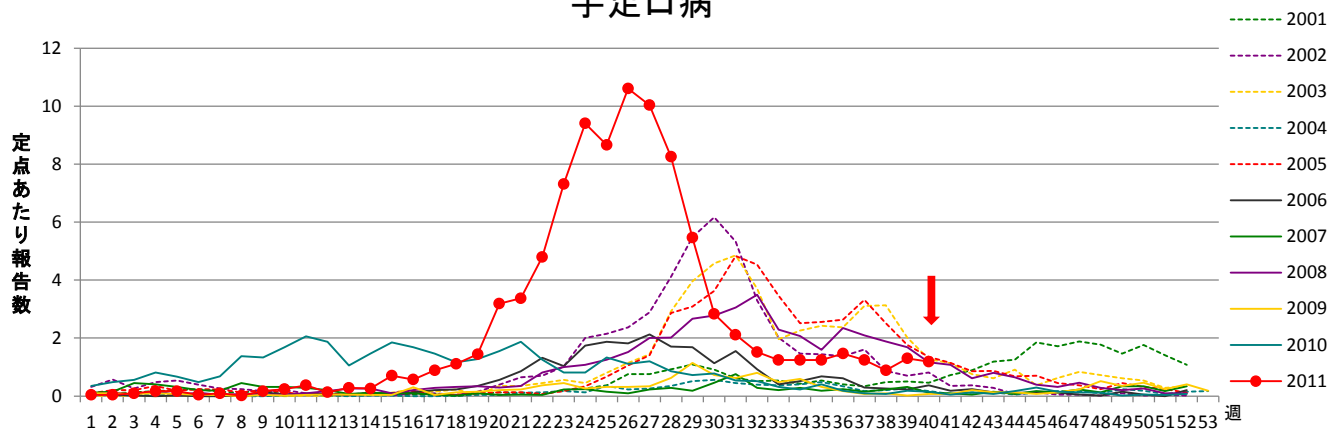
感染性胃腸炎



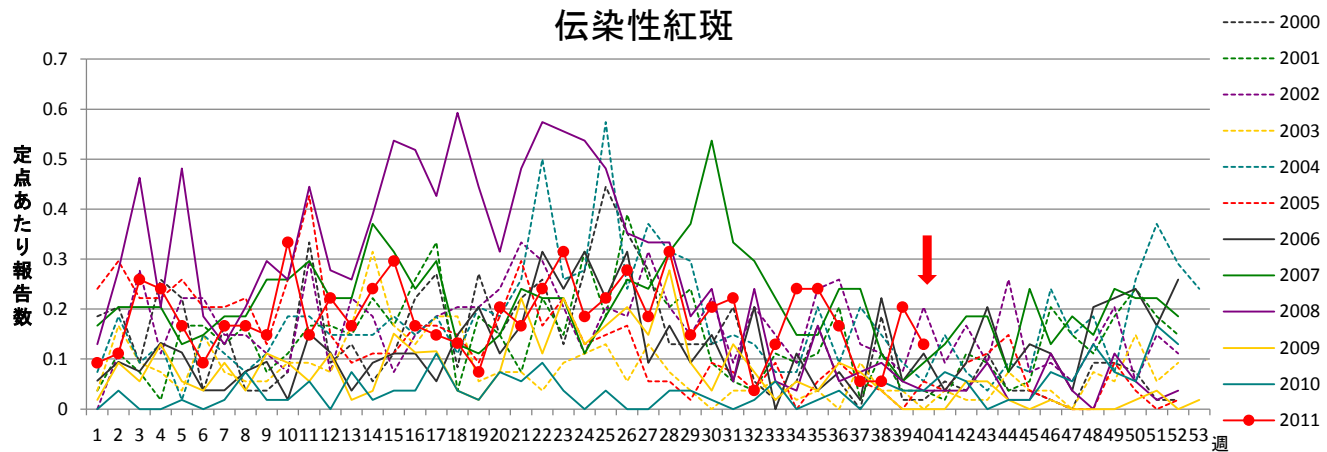
水痘



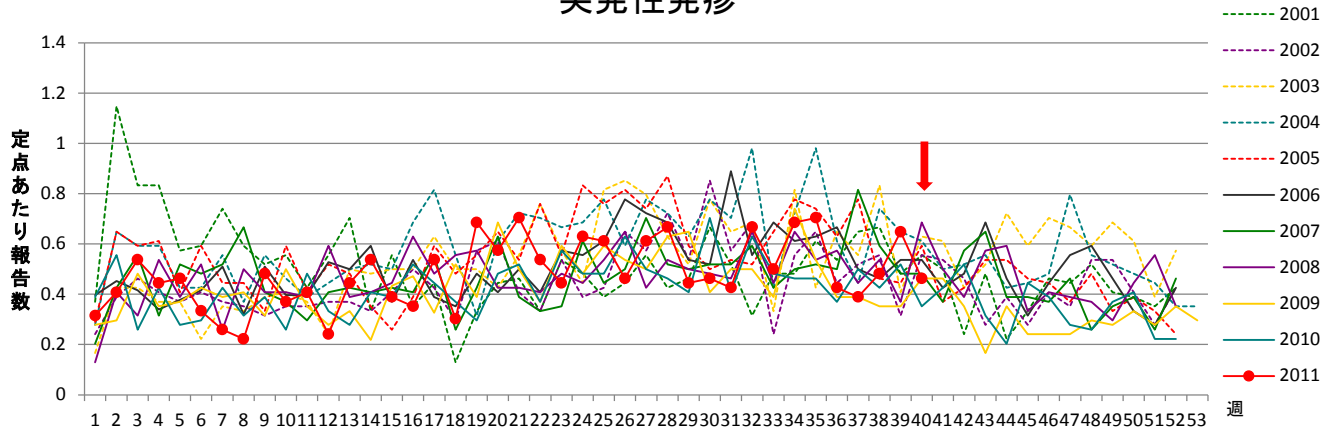
手足口病



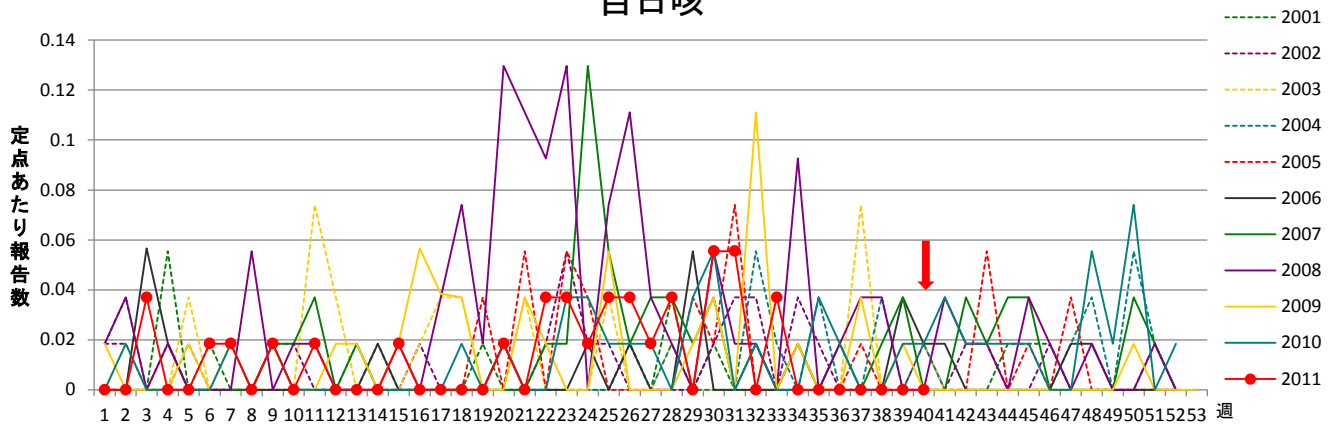
伝染性紅斑



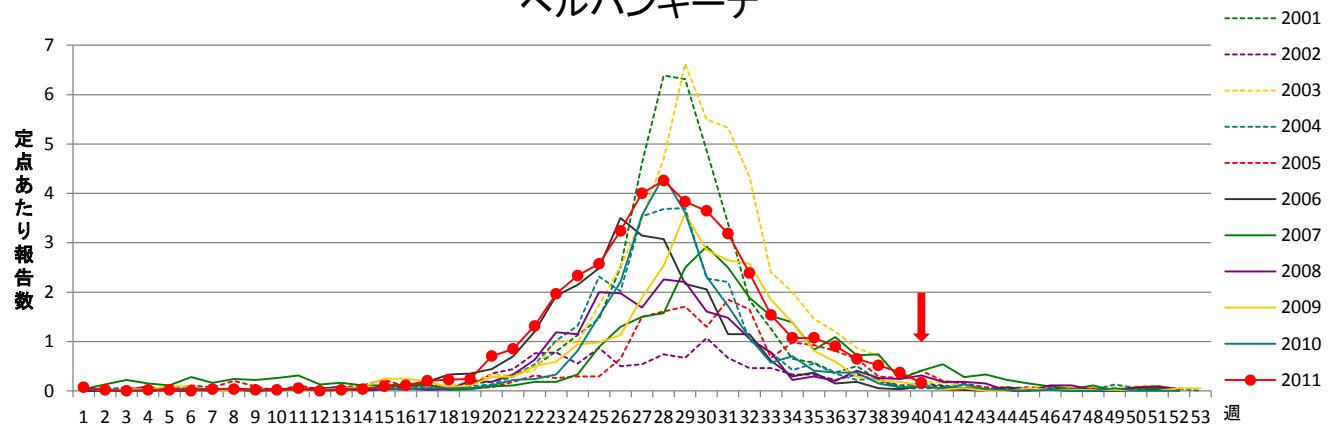
突発性発疹



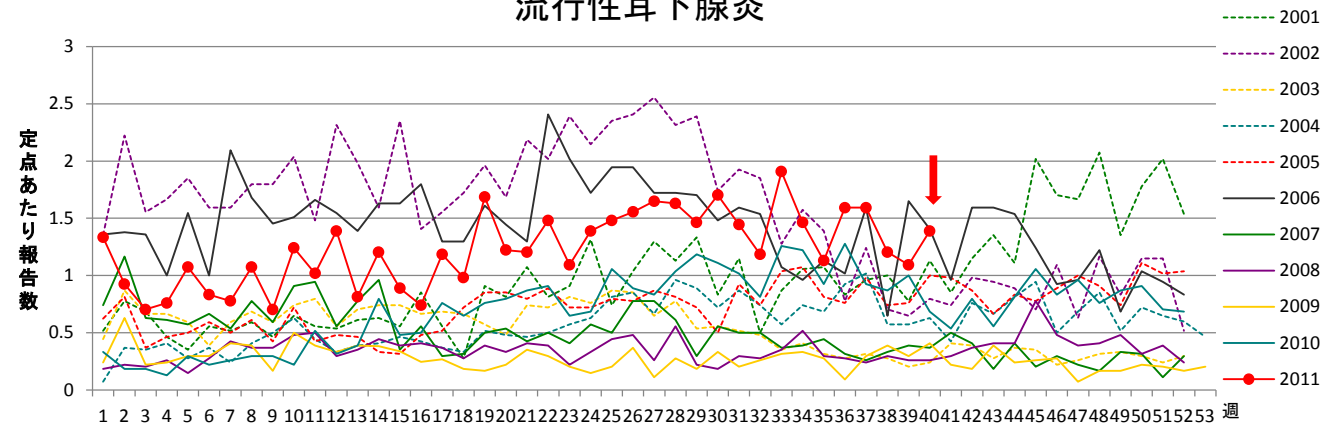
百日咳



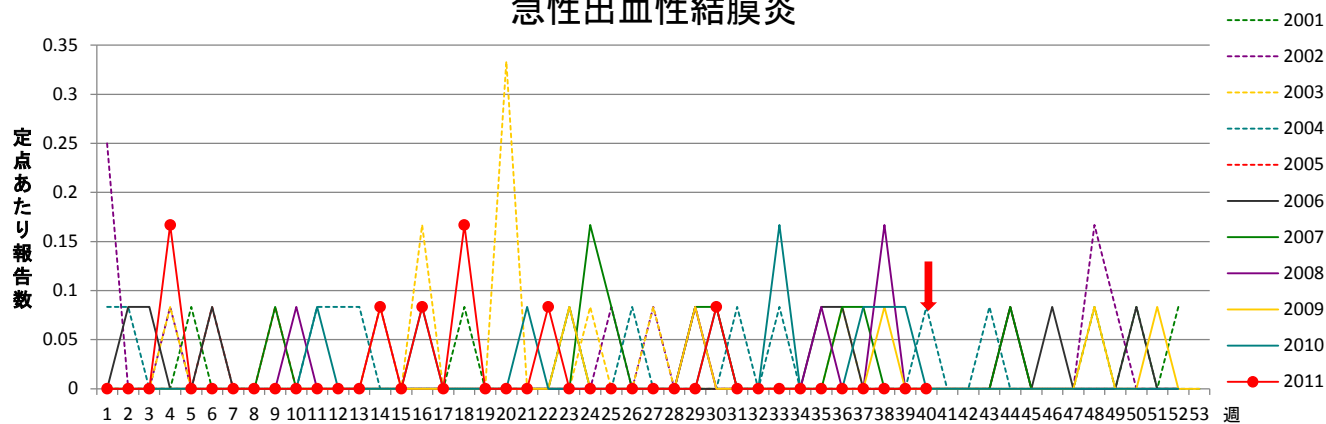
ヘルパンギーナ



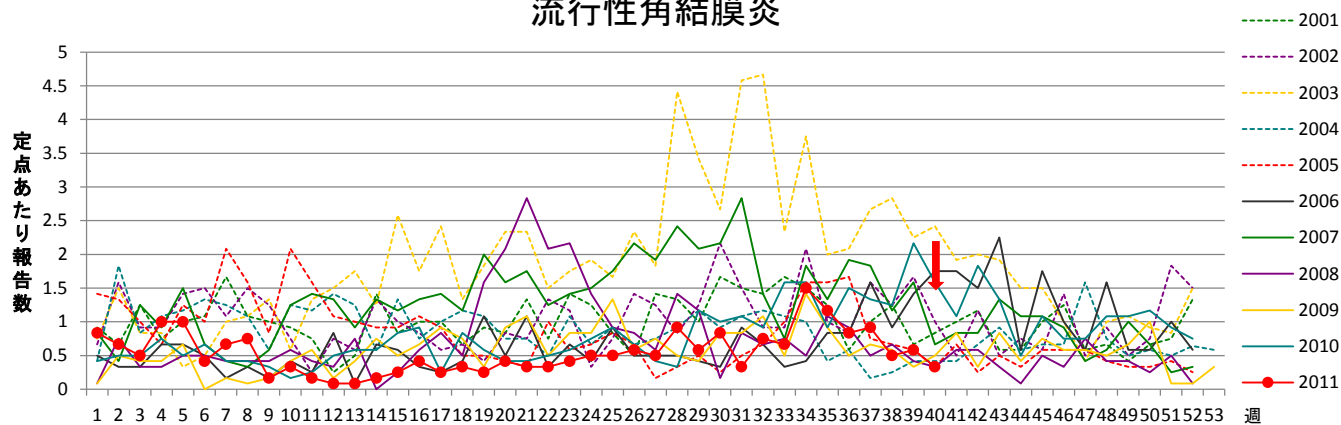
流行性耳下腺炎



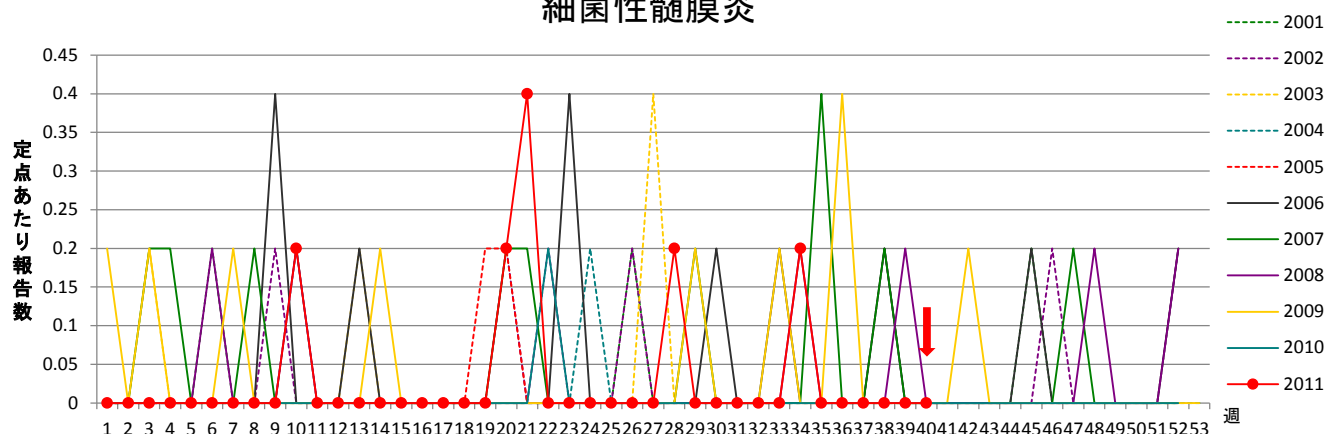
急性出血性結膜炎



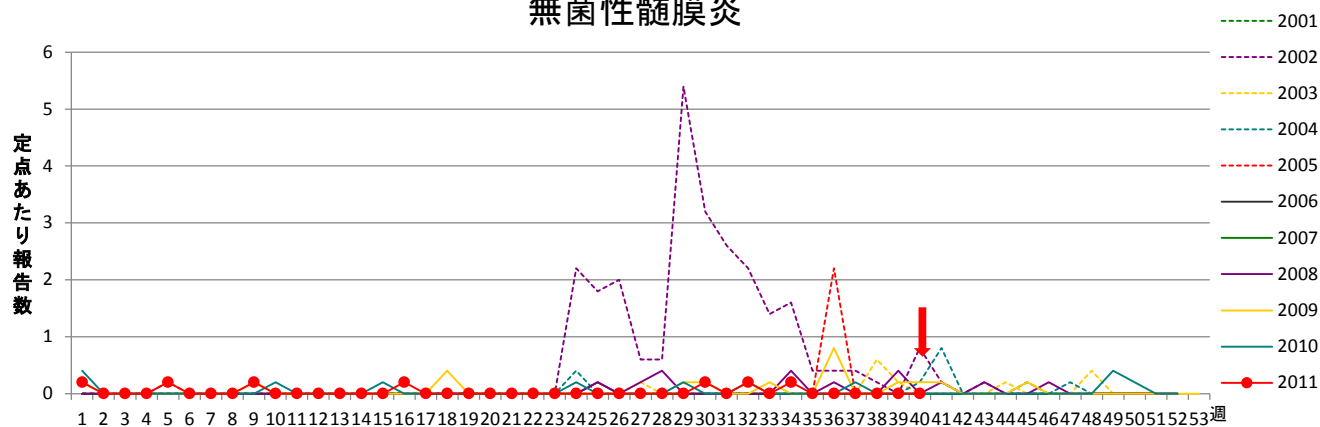
流行性角結膜炎



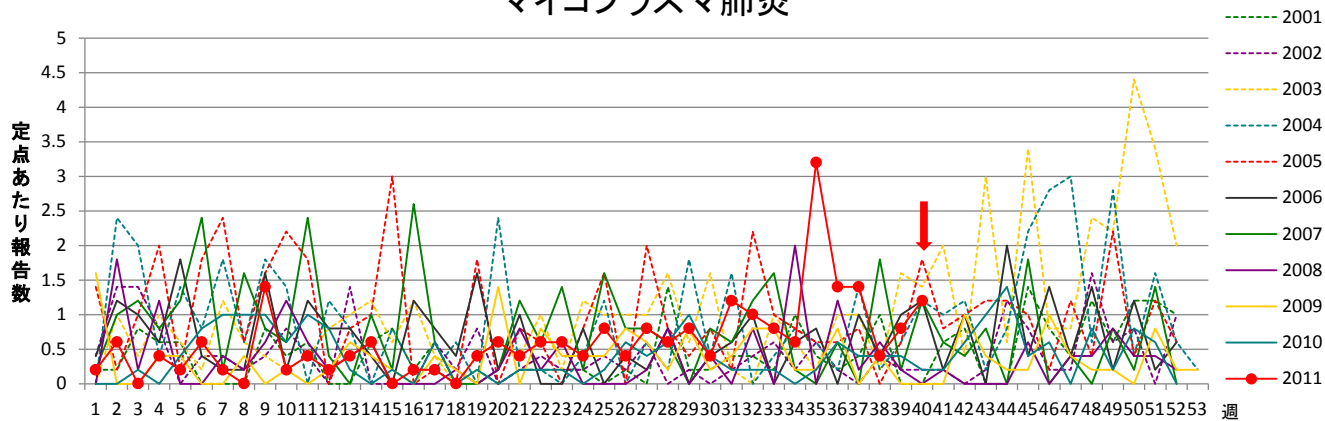
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

